

# VR遊園地手軽でも迫力

仮想現実（VR）の技術が娯楽施設の姿を変えつつある。バンダイナムコエンターテインメントは13日、東京・新宿で今夏開業するVR体験施設の概要を発表。アニメやゲームのキャラクターを題材にした10種類以上のアトラクションをそろえ、訪日客や若者の需要を取り込みを狙う。都心で手軽に楽しめるVRの遊園地は、現実世界の既存施設から客を奪えるか。バンナムが施設をつくるのは新宿の歌舞伎町で、2014年末に閉鎖された「新宿TOKYU MILANO」の跡地。終夜営業のボウリング場など、早期まで多くの人でにぎわったこの場所を、東京都心の新たな遊びの場に現実と違う世界が広がる

名所にしたいと考えた。13日記者会見した浅沼誠常務は「新しいエンターテインメントづくりに挑戦する」と力を込めた。

施設の開業は7月14日の予定。計3600平方メートルのフロアに人気アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」や人気ゲーム「マリオカート」の世界観を築きしめるVR機器を配置する。その一つ、マリオカートのコックピットに座ってみた。

ゴーグル型のディスプレイ端末とヘッドホンを装着。レース開始を知らせる合図とともに、目の前に現実と違う世界が広がる

## 新宿ど真ん中 バンナムが公開



がった。カーブを曲がるたびに椅子が傾き臨場感を高める。車がジャンプすると手元の空調機器が作動し手の間を風がすり抜けた。

大人1人座れるスペースがあれば仮想の世界に

ゴーグルを装着しVRを楽しむ（13日の説明会）

ビジネス  
TODAY

没入でき、賃料の高い都心でも出店しやすいのがVR施設の強み。都心を散策中に立ち寄れる手軽さを武器に郊外のテーマパークに対抗する。カッパル、若者などの利用も見込むが、最大のターゲットは訪日外国人。先端感を訴えて体験型の「コト消費」需要の取り込みを狙う。

## 訪日「コト消費」に照準

全身でVRを体験できる施設が増えている

富士急ハイランド	人気アニメ「進撃の巨人」の世界観を体験できるシアター型アトラクション
アドアーズ	バンジージャンプなどを疑似体験できる「VRパークトーキョー」
イオンモール	ジェットコースターや乗馬を疑似体験できる施設を「越谷レイクタウン」に開業
セガサミーホールディングス	お台場の「東京ジョイポリス」にVRアトラクションを導入

課題は実際の利用がまだ手軽でない点だ。アトラクションを楽しむ時間はそれぞれ6分程度だが、機器の脱着など事前準備にも数分かかる。入場料も4種類のアトラクションの利用料込みで400円と安くはない。

それでもバンナムは歌舞伎町の施設に2年で1

必要としない点も既存の施設との違いだ。

エイチ・アイ・エス（HIS）子会社のハウスデンボス（長崎県佐世保市）も24日、東京・渋谷にVR施設を開業する。鉄塔から宇宙に飛び出し地上に不時着する「ウルトラ逆バンジー」など5種類のアトラクションを用意し、料金は1時間2200円。既存のテーマパークがアトラクションの一部にVRを採用する例も増えてきた。

バンナムが歌舞伎町につくる施設は現時点で国内最大のVR専用施設。仮想の世界は消費者の遊び心を動かせるか。その成否は日本、そして世界の娯楽の未来を占う。

（亀井慶一）